

SHARP

LQ070T5GG02

TFT液晶モジュール

(形名 : LQ070T5GG02)

データシート

資料 No. : LCY-00102

作成日 : 2000年9月18日

SHARP

シャープ株式会社 送付資料
 国内電子部品営業本部販促企画部

本仕様書は参考的に取り扱い願います。
 尚、正式仕様確認の際には、技術部門発行の
 納入仕様書を適用下さい。

仕様書番号 LCY-00102

2000年 9月 18日

参考仕様書

品名 TFT-LCDモジュール

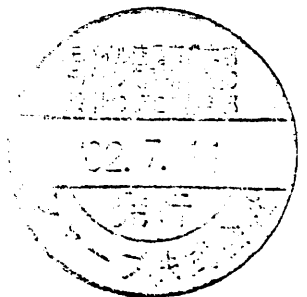
型名 LQ070T5GG02

参 考

おことわり

本書は参考仕様書です。
 製品改良等のため記載内容を予告なく変更する
 ことがありますので、最終設計に際しましては
 納入仕様書をお取り寄せください。

シャープ株式会社
 TFT液晶事業本部



TFT第1事業部 第2開発技術部

副事業部長	副参事	副参事	係長	担当

奈良県天理市樺本町2613番地の1

参 考

LCY00102-1

○本仕様書は弊社の著作権にかかわる内容も含まれていますので、取り扱いには充分にご注意頂くと共に、本仕様書の内容を弊社に無断で複製しないようお願い申し上げます。

○本仕様書に掲載されている応用例は、弊社製品を使った代表的な応用例を説明するためのものであり、本仕様書によって工業所有権、その他権利の実施に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。また、弊社製品を使用したことにより、第三者と工業所有権等にかかわる問題が発生した場合、弊社は一切その責を負いません。

○本製品は、カーナビゲーションおよびAV機器に使用されることを目的に開発・製造されたものです。これ以外の用途に用いられる場合は、事前に弊社販売窓口まで御相談頂きますよう、お願いいたします。

本仕様書に記載される本製品の使用条件や使用上の注意事項等を逸脱して使用されること等に起因する損害に関して、弊社は一切その責任を負いません。

○本製品につきご不明な点がございましたら、事前に弊社販売窓口までご連絡頂きますようお願い致します。

参 考

LCY00102-2

(1) 概要

本TFT-LCDモジュールは、アモルファス・シリコン薄膜トランジスタ(Thin Film Transistor)を用い、アスペクト比16:9のパネルを使用した、フルカラー表示可能なアクティブ・マトリクス型液晶ディスプレイ(Liquid Crystal Display)・モジュールです。モジュール概要を表1に示します。

(2) 特長

- ・アスペクト比16:9のパネルを使用し、ワイド画面化に対応
- ・7.0型画面で、ストライプ配列112, 320画素構成の高精細画像
- ・広視野角化技術の採用 (最適視角:12時方向)
- ・アクティブ・マトリクス駆動方式採用により高コントラスト画像を実現
- ・低反射ブラックマトリクス、AG(アンチグレア)偏光板の採用により外光反射を低減
- ・COG実装技術を用いた薄型・軽量・コンパクトなモジュール形態
- ・高開口率パネル、高透過カラーフィルター、高透過偏光板の採用により透過率を向上

(3) 構造及びモジュール外形

モジュール外形寸法図を図1に、組立て形態図を図2に示します。

モジュールは、TFT-LCDパネル、ドライバー、FPC、フレーム、シールド表ケース、シールド裏ケース、バックライトから構成されています。

(バックライト駆動用DC/ACインバータ回路はモジュールに内蔵されていません)

(4) 機械的仕様

表1 モジュールの概要

項 目	仕 様	単 位	備 考
ドット構成	1440(水平)×234(垂直)	ドット	
有効表示範囲	154.1(水平)×87.0(垂直)	mm	
画面サイズ(対角)	17.7 [7.0型]	cm	
ドットピッチ	0.107(水平)×0.372(垂直)	mm	
画素配列	赤、緑、青、ストライプ配列		
モジュール外形寸法	169.5(W)×103.1(H)×13.6(D)	mm	突起部除く
質 量	230(MAX)	g	

参 考

(5) 入出力端子の名称及び機能

5-1) TFT液晶パネル駆動部

表2 入出力端子の名称及び機能

端子	名称	i/o	機 能	備 考
1	VGH	i	ゲートドライバ 電源電圧 Hiレベル	
2	OPEN	-	電氣的に開放状態にしてください。	
3	OPEN	-	電氣的に開放状態にしてください。	
4	MODE 2	i	ゲートドライバ コントロール信号	【注2-1】
5	MODE 1	i	ゲートドライバ コントロール信号	【注2-1】
6	VRV	i	ゲートドライバ スキャン方向切替え信号	【注2-2】
7	SPS	i	ゲートドライバ スタート信号	
8	CLS	i	ゲートドライバ クロック信号	
9	VCC	i	ゲートドライバ ロジック電源電圧 Hiレベル	
10	OPEN	-	電氣的に開放状態にしてください。	
11	OPEN	-	電氣的に開放状態にしてください。	
12	VSS	i	ゲートドライバ ロジック電源電圧 Loレベル	
13	OPEN	-	電氣的に開放状態にしてください。	
14	OPEN	-	電氣的に開放状態にしてください。	
15	VGL	i	ゲートドライバ 電源電圧 Loレベル	
16	COM	i	共通電極駆動信号入力端子	
17	GND	i	GND端子	
18	CLD	i	ソースドライバ クロック信号	
19	SPIO	i/o	ソースドライバ スタート信号 (正スキャン時)	
20	CTR	i	ソースドライバ コントロール信号	【注2-3】
21	PS	i	パワーセーブ設定端子	【注2-4】
22	HRV	i	ソースドライバ スキャン方向切替え信号	【注2-2】
23	SPOI	o/i	ソースドライバ スタート信号 (逆スキャン時)	
24	GND	i	GND端子	
25	VB	i	ビデオ信号(青)	
26	VG	i	ビデオ信号(緑)	
27	VR	i	ビデオ信号(赤)	
28	GND	i	GND端子	
29	VSH	i	ソース電源電圧 Hiレベル	
30	VSH	i	ソース電源電圧 Hiレベル	
31	VSH	i	ソース電源電圧 Hiレベル	
32	VSH	i	ソース電源電圧 Hiレベル	

【注2-1】 7-7) 項参照

【注2-2】 7-4) 項参照

【注2-3】 7-5) 項参照

【注2-4】 通常Hi設定にて使用してください。

5-2) バックライト蛍光管駆動部

端子名	端子No.	名称	i/O	機 能	備 考
CN1	1	VL1	i	蛍光管入力端子 (高電圧側)	
	2	VL2	i	蛍光管入力端子 (高電圧側)	
	3	NC	-	ピン無し	
	4	VL3	i	蛍光管入力端子 (低電圧側)	【注3-1】

【注3-1】 蛍光管駆動用DC/ACインバータの低電圧側はインバータ回路のGNDに接続してください。

(6) 絶対最大定格

表3 絶対最大定格

GND = 0V

項 目		記号	MIN	MAX	単位	備考	
ソース電源電圧		VSH	-0.3	+6.0	V	Ta = 25°C	
ゲート電源電圧	TFT 駆動用 電源	Hi	VGH	-0.3	+33.0	V	//
		Lo	VGL	VGH-33.0	VGH+0.3	V	//
	ロジック用 電源	Hi	VCC	VSS-0.3	VSS+7.0	V	//
		Lo	VSS	VGH-33.0	VGH+0.3	V	//
		VSS-VGL	+0.3	+35	V	//	
アナログ入力信号 [端子1-1]		VIA	-0.3	VSH+0.3	V	//	
デジタル入力信号 [端子1-2]		VID	-0.3	VSH+0.3	V	//	
共通電極駆動信号[COM]		VCDC	-4	+6	V	//	
保存温度		Tstg	-30	85	°C	【注4-1,2】	
動作温度(パネル面温度)		Topr1	-30	85	°C	【注4-1,2,3】	
動作温度(周囲温度)		Topr2	-30	65	°C	【注4-4】	

[端子1-1] VR, VG, VB端子

[端子1-2] CLD, SPIO, SPOI, CTR, HRV, VRV, MODE2, MODE1, SPS

CLS端子

【注4-1】 モジュールのいかなる部分に関しても本定格を越えないようにしてください。

【注4-2】 最大湿球温度58°C以下、結露させないこと。結露した場合電氣的リークが発生し、本仕様を満足しない場合があります。

【注4-3】 動作温度は動作のみを保証する温度でありコントラスト、応答速度、その他の表示品位に関してはTa = +25°Cにて判定を行います。

【注4-4】 バックライト点灯時の周囲温度 (参考値)

参 考

(7) 電気的特性

7-1) 推奨動作条件

A) TFT液晶パネル駆動部

表4 推奨動作条件

GND = 0V, Ta = 25°C

項 目			記号	MIN	TYP	MAX	単位	備 考	
ソース電源電圧			VSH	+4.8	+5.0	+5.5	V	【注5-1】	
ゲート電源電圧	TFT 駆動 用電源	Hi	VGH	+12.5	+13.0	+13.5	V		
		Lo	AC	VGLAC	±0.5	±3.9	±5.0		Vp-p
			DC	VGLDC	-9.5	-10.0	-10.5		V
	バック用 電源	Hi	VCC	VSS+VSH-0.1	VSS+VSH	VSS+VSH+0.2	V		
Lo		VSS	-18.0	-17.0	-16.0	V			
アナログ入力電圧 [端子2-1]	AC成分	VIAC	±2.0	-	±2.0	V	【注5-2】		
	DC成分	VIDC	VSM-0.1	VSM	VSM+0.1	V	【注5-3】		
デジタル入力電圧 [端子2-2]	Hi	VIDSH	VSH-1.0	-	VSH	V			
	Lo	VIDSL	0	-	1.0	V			
デジタル入力電流 [端子2-2]	Hi	IIDSH	-	-	60.0	μA	VIDSH=VSH		
		IIDSL	-	-	60.0	μA	VIDSL=0V		
	Lo		-	-	2.4	mA	HRV 端子のみ		
デジタル入力電圧 [端子2-3]	Hi	VIDGH	VSH-1.0	-	VSH	V			
	Lo	VIDGL	0	-	1.0	V			
デジタル入力電流 [端子2-3]	Hi	IIDGH	-	-	3.0	μA	VIDGH=VSH		
	Lo	IIDGL	-	-	3.0	μA	VIDGL=0V		
共通電極駆動信号	AC成分	VCAC	±0.5	±3.9	±5.0	Vp-p	【注5-1,5-4】		
	DC成分	VCDC	+0.5	+2.0	+3.5	V			

注意事項…電源投入及び遮断は各電源同時又は次の様な順序で行って下さい。また、信号の入力は全電源投入後に行って下さい。

投入 VSH→VSS→VCC→VGL→VGH 遮断 VGH→VGL→VCC→VSS→VSH

[端子2-1] VR, VG, VB 端子

[端子2-2] CLD, SPIO, SPOI, CTR 端子

[端子2-3] MODE2, MODE1, VRV, SPS, CLS 端子

【注5-1】 VCDC 調整後の電圧変動は 0.1V 以下にして下さい。

【注5-2】 振幅は正・負極性で対称にして下さい。±はCOMと同位相、∓はCOMと逆位相であることを示し、MIN値では白表示、MAX値では黒表示となります。

【注5-3】 VSH = VSH / 2

【注5-4】 モジュール毎に調整が必要です。コントラストが最大となるように調整して下さい。

B) バックライト蛍光管駆動部

表5

項 目	記号	MIN	TYP	MAX	単位	備 考
放電管電圧	VL7	330	370	410	Vrms	
放電管電流	IL	5.5	6.0	6.5	mA rms	ランプ1本当たり
点灯可能周波数	fL	45	-	70	kHz	
放電開始電圧	VS	-	-	1300	Vrms	Ta = +25°C
		-	-	1350	Vrms	Ta = -30°C

参 考

7-2) デジタル信号適性使用条件 (AC特性)

表6 $V_{SH}=5.0V, V_{CH}=13.0V, V_{CC}=-10.9V, V_{SS}=-16.0V, V_{CLDC}=-10.0V, V_{CLAC}=\pm 3.9V, GND=0V, Ta=25^{\circ}C$

項目		記号	MIN	TYP	MAX	単位	適用端子
ソ	動作クロック周波数	f_{CLD}	-	-	5.0	MHz	CLD
	Hiレベルクロック幅	t_{VHC}	80.0	-	-	ns	
	Loレベルクロック幅	t_{VLC}	80.0	-	-	ns	
	クロック立ち上がり時間	tr_D	-	-	20.0	ns	CLD
	クロック立ち下がり時間	tf_D	-	-	20.0	ns	
ス	データセットアップ時間	t_{SUD}	30.0	-	-	ns	SPIO, SPOI
	データホールド時間	t_{HD}	30.0	-	-	ns	
	Hiレベルパルス幅	t_{WHD1}	0.4			μs	
	パルス立上り時間	tr_P			20	ns	
	パルス立下り時間	tf_P			20	ns	
ゲ	動作クロック周波数	f_{CLS}	-	-	16.5	kHz	CLS
	最小クロックパルス幅	t_{WHS}	0.5	-	-	μs	
	クロック立ち上がり時間	tr_{CL}	-	-	100.0	ns	
	クロック立ち下がり時間	tf_{CL}	-	-	100.0	ns	
	データセットアップ時間	t_{SUS}	100.0	-	-	ns	CLS
	データホールド時間	t_{HS}	300.0	-	-	ns	SPS
ト	モードセットアップ時間	t_{SUM}	300.0	-	-	ns	CLS、MODE2
	パルス立ち上がり時間	tr_S	-	-	100	ns	SPS
	パルス立ち下がり時間	tf_S	-	-	100	ns	

7-3) 入力信号タイミング図

図4に示します

7-4) 表示反転用信号

表7

表示モード	HRV	VRV
標準表示	Hi	Hi
左右反転表示	Lo	Hi
上下反転表示	Hi	Lo
上下左右反転表示	Lo	Lo

注) Lo=GND , Hi=VSH

7-5) CTR端子 (ソースドライバーコントロール信号)

サンプリング回路の切り替えを制御する端子で水平走査スタートパルスのセンターでHi、Loの切り替えを行い、1水平期間中切り替えは行わないようにして下さい。

Hiレベル=VSH Loレベル=GND

参 考

7-6) 消費電力

表 8

T a = 25°C

項 目	記号	電 圧 条 件	MIN	TYP	MAX	単 位	
ソース電流	Hi	I_{SH}	$V_{SH}=+5.0V$	-	45	60	mA
ゲート側	Hi	I_{GH}	$V_{GH}=+13.0V$	-	0.1	1.0	mA
	Lo	I_{GL}	$V_{GLDC}=-10.0V$	-	0.1	1.0	mA
	バック	I_{CC}	$V_{CC}=-10.9V$	-	0.02	1.0	mA
		I_{SS}	$V_{SS}=-16.0V$	-	0.2	1.0	mA
放電管電力	WL		定格点灯時	-	4.5	-	W

信号条件：CLS=15.73kHz, SPS=60Hz, SPD=15.73kHz, CLD=3.99MHz

専用コントロール信号発生用コントロール ic (L29GJ24) を使用、通常モード時 (NTSC)

7-7) ゲートドライバコントロール信号 [MODE 1、MODE 2]

ゲートドライバーの出力切り替えを表 9 に示します。

表 9

MODE 1	MODE 2	出力モード
Hi	Hi	標準モード (1ライン書き込み)
Lo	Hi	2ライン同時書き込みモード
Hi	Lo	禁止
Lo	Lo	出力なし

注) Lo=GND , Hi=VSH

(8) 光学的特性

表 10

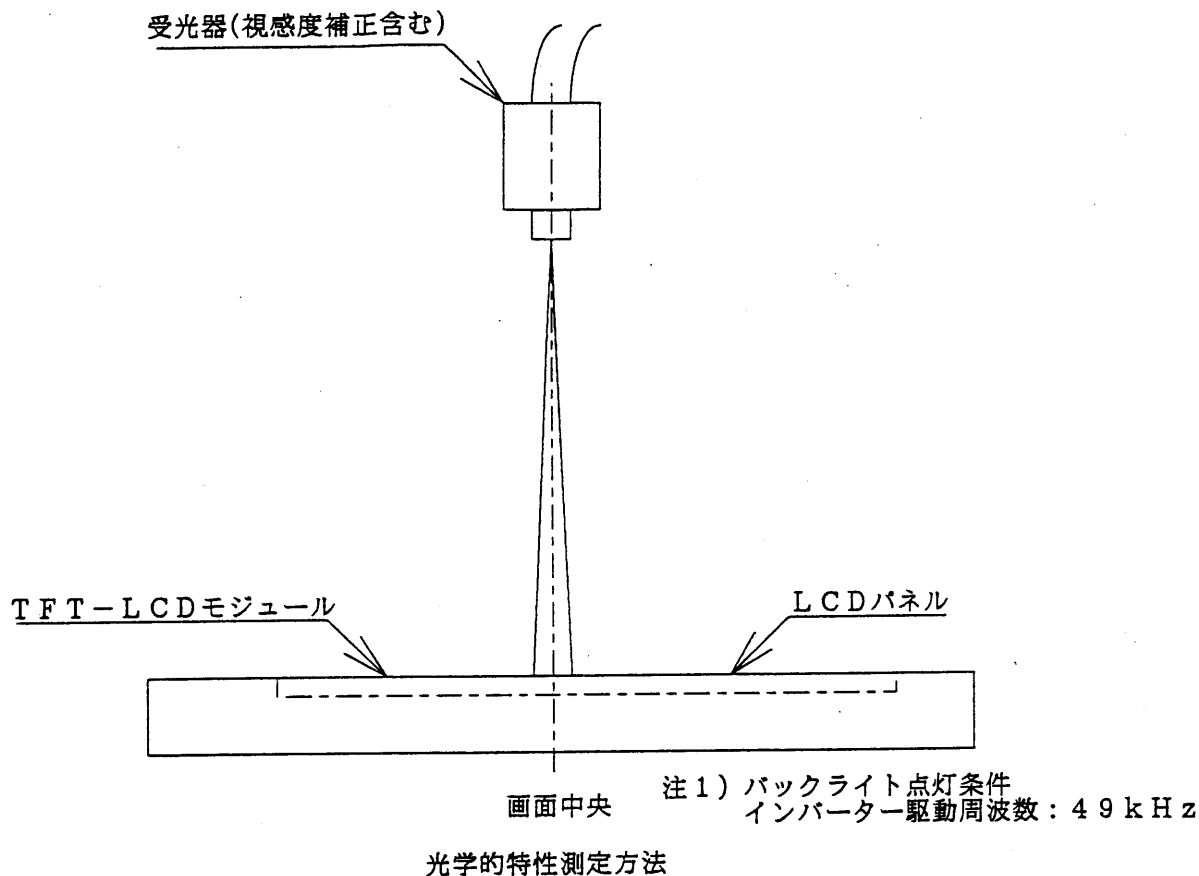
T a = 25°C

項目	記号	条 件	MIN	TYP	MAX	単 位	備考	
視角範囲	$\Delta\theta 11$	CR \geq 5	35	40	-	° (度)	【注 6-1,2,3】	
	$\Delta\theta 12$		60	65	-	° (度)		
	$\Delta\theta 2$		60	65	-	° (度)		
コントラスト比	Crmax	最適視角での値	60	-	-		【注 6-2,3】	
応答速度	立ち上がり時間	$\theta = 0^\circ$	τr	-	30	60	ms	【注 6-2,4】
	立ち下がり時間		τd	-	50	100	ms	
パネル面輝度	Y	IL=6.0mArms	300	400	-	cd/m ²	【注 6-5】	
パネル面色度	x	IL=6.0mArms	0.263	0.313	0.363		【注 6-5】	
	y	IL=6.0mArms	0.279	0.329	0.379			
蛍光管寿命	+25°C	-	連続点灯	10,000	-	-	時間	【注 6-7】
	-30°C	-	断続点灯	2,000	-	-	回	【注 6-8】

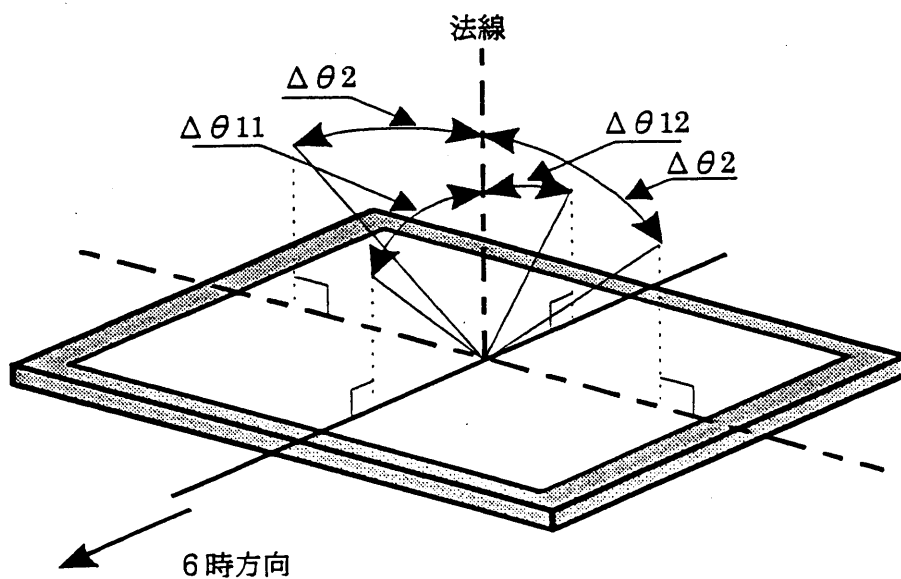
本バックライトユニットの点灯評価用には下記インバーターを使用

ハリソン電機 (株) : H I U - 3 5 9 A - S

※ ランプ定格点灯後10分後に測定します。また光学的特性測定は、下図の測定方法を用いて暗室あるいはこれと同等な状態にて行います。



【注6-1】 視角範囲を下記のように定義します。



参 考

【注 6-2】 光学特性測定時印加電圧

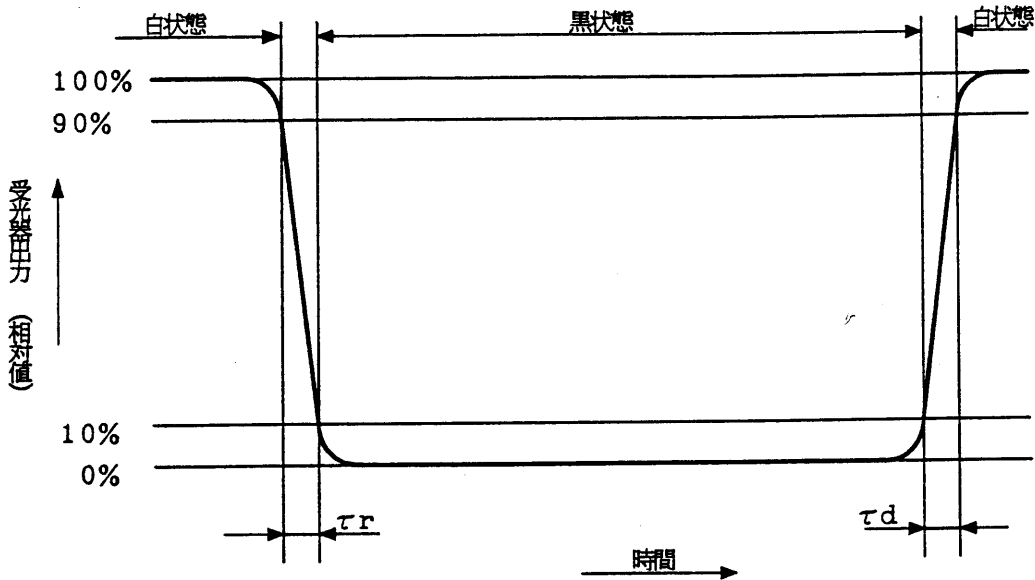
- (1) V_{DC} を調整して下さい。
- (2) V_{IAC} に、 $\pm 1.9 V$ を入力します。

電圧-透過率曲線において、透過率 50% 時の V_{CAC} を V_{i50} とした時、黒レベル $V_{i50} \pm 2.5 V$ 、白レベル $V_{i50} \mp 1.5 V$ を入力します

【注 6-3】 コントラスト比を下記のごとく定義します。

$$\text{コントラスト比 (CR)} = \frac{\text{白 状態の受光器出力}}{\text{黒 状態の受光器出力}}$$

【注 6-4】 被測定エリアに白及び黒状態となる入力信号を加え、その時の受光器出力値の時間変化を測定します。



【注 6-5】 TOPCON 輝度計 BM-7 による、測定角 1° でのパネル面中央部の点灯 10 分後の測定値。(初期特性)

インバータ駆動周波数: 49 kHz (周波数 up による輝度 up 含まず)

【注 6-6】 周囲温度 $-20^\circ C$ 無風状態における、点灯 1 分後のパネル上の輝度値。

インバータ駆動周波数: 49 kHz (周波数 up による輝度 up 含まず)

【注 6-7】 下記条件にて、パネル面上の輝度値が初期の輝度値の 50% 以下とならないの動作時間。

(点灯条件)

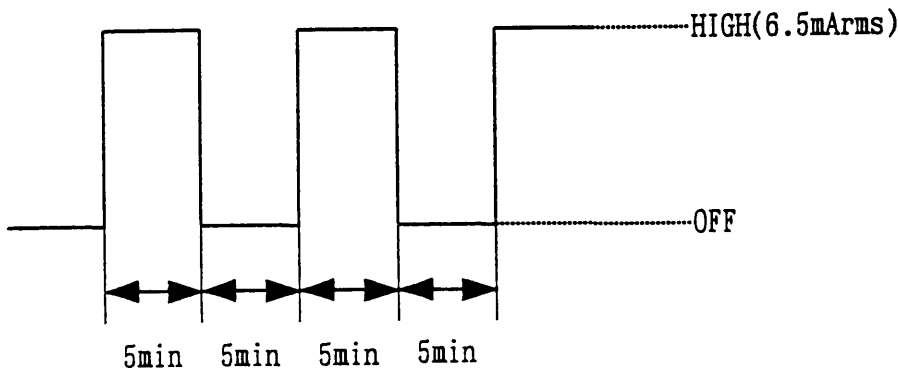
電流調光時、 $IL=6.0mA_{rms}$

PWM 調光時、100%~5%

【注 6-8】 下記点灯条件にて、パネル面上の輝度値が初期の輝度値の 50% 以下とならない ON-OFF 回数。

(点灯条件)

周囲温度: $-30^\circ C$



参 考

LCY00102-10

(9) 機械的性能

9-1) 外観 著しい欠陥のないこと。(図1:外形寸法図参照)

9-2) パネル 面圧縮強度

パネル破壊 直径15mmの平滑な面でパネル中央を19Nで加圧しても破壊しないこと。

(注意) 微小加重にかかわらず、長期に渡り有効表示領域に圧力を加えると、機能上支障が出る場合がありますので、注意願います。

9-3) バックライトハーネスの引っ張り強度

10N以上の力で引っ張らないこと。また、定常的にも張力が加わらない構造・組込みとしてください。

9-4) 入出力コネクタ性能

A)液晶パネル駆動部入出力コネクタ

①適合コネクタ : 32FLZ-RSM1-R-TB (JST)

②FPC耐屈曲性 : I. フィルムカバーレイスリット部 (折り曲げスリット①)

屈曲半径0.6mmR、屈曲角度90°の条件にて屈曲試験を行い、30回以下にて断線しないこと。

II. フィルムカバーレイコート片面配線部 (折り曲げスリット②)

屈曲半径無し、ハゼ折 (但し折り曲げは手による、折り曲げは1回)の条件にて屈曲試験を行い、断線しないこと。

B) バックライト蛍光管駆動部入出力コネクタ【日本圧着端子(株)製】

端子名	使用コネクタハウジング	適合コネクタ(プラグ)
CN1	BHR-04VS-1	SM04(4.0)B-BHS-1-TB(基盤取付型)

(11) TFT-LCDモジュールの取り扱い

11-1) モジュールの取り付けについて

- ①取り付け時は同一平面で固定するようにして、モジュールに“ソリ”や“ネジレ”などのストレスが加わらないようにご配慮下さい。
また、画像の乱れを起こすことがありますので、セット側のタッチスイッチ等の押圧が直接モジュールに伝わらないようにご配慮下さい。
- ②入出力FPCをコネクタに挿入あるいはそれから抜く場合には、必ずセット側の電源をOFFにしてください。
- ③モジュールの金属シールドケースと、インバータ回路のGNDを必ず接続してください。
接続が完全でない場合は、以下の問題が生じる恐れがあります。
 - a) バックライト起因のノイズが増加します。
 - b) インバータ回路出力が不安定となります。
 - c) 場合によっては、部分的に発熱することがあります。

11-2) 実装時の注意事項

偏光板は、柔らかく傷つきやすいので、取り扱いには十分注意して下さい。なおキズ、汚れの防止のため保護フィルム（ラミネータ）が貼ってあり、できる限り使用直前に静電気に注意しながらはずしていただくことをお奨めいたします。

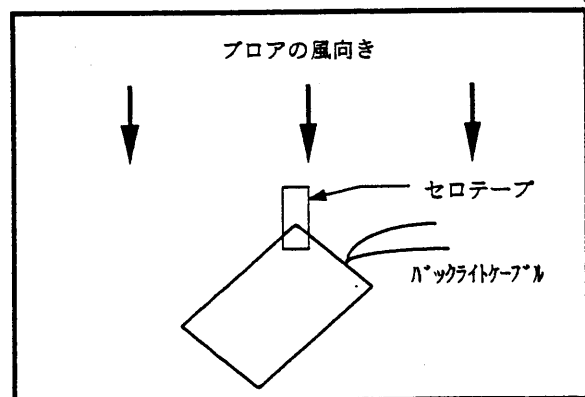
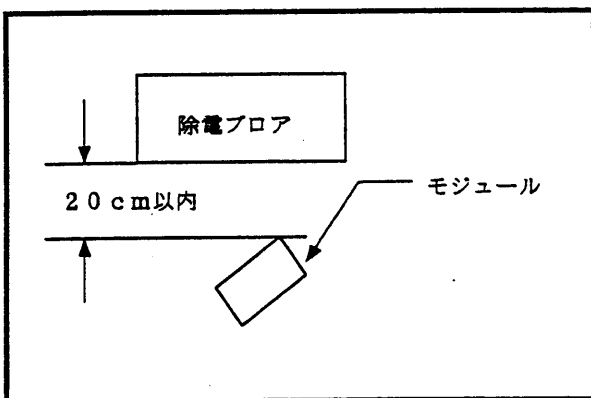
偏光板ラミネータ剥離作業の注意事項

A) 作業環境

ラミネータを剥離した場合に、静電気によるゴミ等の吸着を起こす場合がありますので、下記環境下での作業が望まれます。

- a) 床：タイル上に1MΩ以上の導電処理（導電マット敷き床、又は導電塗料の塗床）
- b) 外気よりの粉塵が直接入らない部屋で、出入口にはゴミ除き用粘着マットを設置して下さい。
- c) 湿度50%～70%、温度は15℃～27℃が望まれます。
- d) 作業者は、導電靴、導電作業衣、導電手袋、及びアースバンドを着用して下さい。

B) 作業方法



- a) 除電フロアの風向きは、モジュールによく当たるようにやや下向きにして下さい。モジュールと除電フロアの距離は20cm以内として下さい。また、モジュールの向きにご注意下さい。（上図参照）
- b) 偏光板をキズつけない為に接着テープ（セロテープ等）を、除電フロアに近い部分のラミネータ部に押し当てます。（上図参照）

- c) セロテープを手前に引きながらラミネータを剥離します。
剥離時間は、5秒以上かけてゆっくり行って下さい。
- d) ラミネータ剥離後のモジュールは、ホコリのかからぬように、すぐに次の作業に移して下さい。
- e) 偏光板上「ゴミ」の除去方法
 - ・静電気対策がされたN₂ブローで吹きとばして下さい。
 - ・偏光板は、キズつきやすい為拭きとりを行うのは望ましくありません。汚れや指脂がついたときは、セロテープの粘着面を利用して汚れをそっと引きはがす方法が推薦できます。やむをえない場合は、レンズ拭き用布にて息を吹きかけ注意深く拭きとって下さい。

TFT-LCDモジュールの金属部（シールドケース、シールド裏ケース）が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭きとって下さい。取れにくい場合、息をふきかけて拭きとって下さい。

水滴や指脂などが長時間付着すると変色やシミの原因になりますのですぐに拭き取って下さい。

TFT-LCDパネル（ガラス）を使用しておりますので落としたり、固いものに当たるとワレ、カケの原因になります。取り扱いにはご注意下さい。

このモジュールにはCMOS LSIを使用しておりますので、取り扱い時の静電気に十分注意し、人体アースなどの配慮をして下さい。

11-3) 製品設計上の注意事項

当モジュールを使った製品設計に際しては下記の注意点を厳守願います。

- ①モジュールは防水カバーなどで保護し、塩分・水が容易に入らない設計をお願いします。
- ②モジュールからの不要輻射が周辺機器に妨害を与えないように製品化設計に際しては十分なシールド対策をお願いします。

11-4) その他

- ①液晶は紫外線に対して劣化しますので、直接日光下や強い紫外光のもとで長時間放置しないようにして下さい。
- ②定格保存温度以下では、内部の液晶が凝固しパネル破損の原因になります。
また、定格保存温度を超えると液晶が等方性の液体となり、元の状態に戻らないことがあります。できるだけ室温付近での保存をお願いします。
- ③ランプリード線の引き回しによる近接導体部への漏洩電流による影響のため放電開始電圧が規定値を越えて必要なことがあります。
- ④LCDが破損した場合、パネル内の液晶が漏れる恐れがあります。もし誤って目や口に入った場合は、直ちに水で洗い落として下さい。
- ⑤その他、通常電子部品に対する注意事項は遵守して下さい。

(12) 出荷形態

12-1) 図4に梱包形態図を示します。

12-2) カートン保管条件

①カートン積み上げ段数 16段

②環境

温度 0~40℃

相対湿度 60%以下

低温時高湿下においても結露の無きこと。

雰囲気 酸、アルカリ等電子部品及び配線材を著しく腐食させる有毒ガスが検出されないこと。

期間 3ヶ月程度

開梱 静電気による開梱時のTFTモジュールの破損を防止する目的で、50%RH
以上に調湿後静電アース等有効な対策を施して開梱下さい。

(13) 信頼性試験項目

本TFT-LCDモジュールの信頼性試験項目を表11に示します。

(14) その他

13-1) ロット番号表示

ラベルにより表示します。表示位置を図1.外形寸法図に示します。

表示内容 LQ070T5GG02 ○○○○○○○○○

機種名

ロット番号

ロット番号内容	1桁目	..	生産年 (例.2000年 → 0)
	2桁目	..	生産月 1,2,3,.....,9,X,Y,Z
	3~8桁目	..	連番 000001~
	9桁目	..	改訂記号 A, B, C ..

TFT-LCDモジュール信頼性試験条件

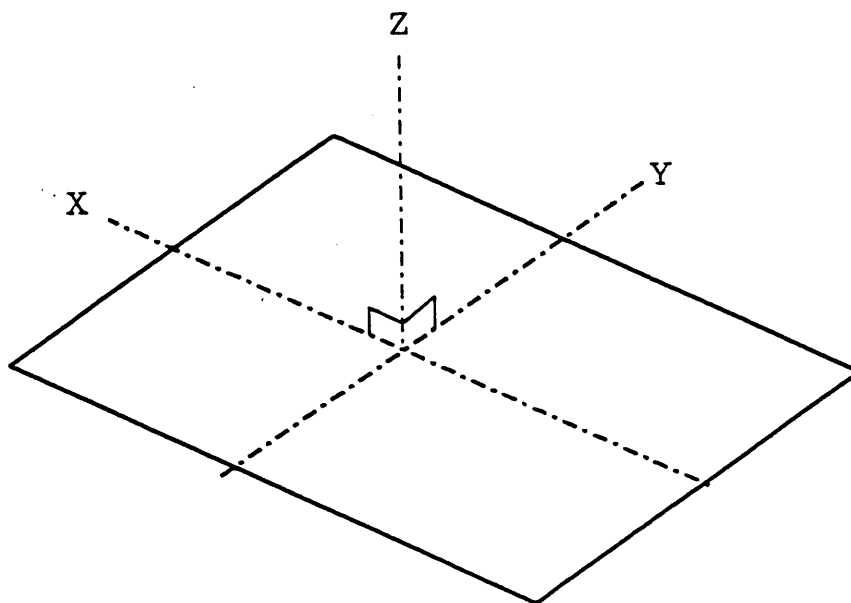
表 1 1

注意) 温度条件は、(6) - 表 3 の動作温度条件に基づきます。

No.	試験項目	試験内容
1	高温保存	周囲温度 85°C の雰囲気中で 240 h 放置
2	低温保存	周囲温度 -30°C の雰囲気中で 240 h 放置
3	高温高湿動作	パネル面上温度 60°C, 湿度 90% RH の雰囲気中で 240 h 動作
4	高温動作	パネル面上温度 85°C の 240 h 動作
5	低温動作	周囲温度 -30°C の雰囲気中で 240 h 動作
6	静電耐圧	±200V・200pF (0Ω) 各端子 1 回
7	耐衝撃性	980 m/s ² ・6ms, ±X; ±Y; ±Z 各 3 回 (JIS C0041, A-7 条件C)
8	振動	周波数範囲: 8~33.3 Hz 全振幅 : 1.3 mm 掃引割合 : 33.3 Hz~400 Hz 加速度 : 28.4 m/s ² 周期 : 15 分 X, Z, 方向各 2 時間, Y 方向 4 時間(計 8 時間) 【注】 (JIS D1601)
9	熱衝撃	-30°C~+85°C/200 サイクル (0.5h) (0.5h)

【評価方法】 標準状態において、表示品位検査条件の下、実使用上支障となる変化がないこと。

【注】 X, Y, Z 方向の定義を示す。



参 考

LCY00102-15

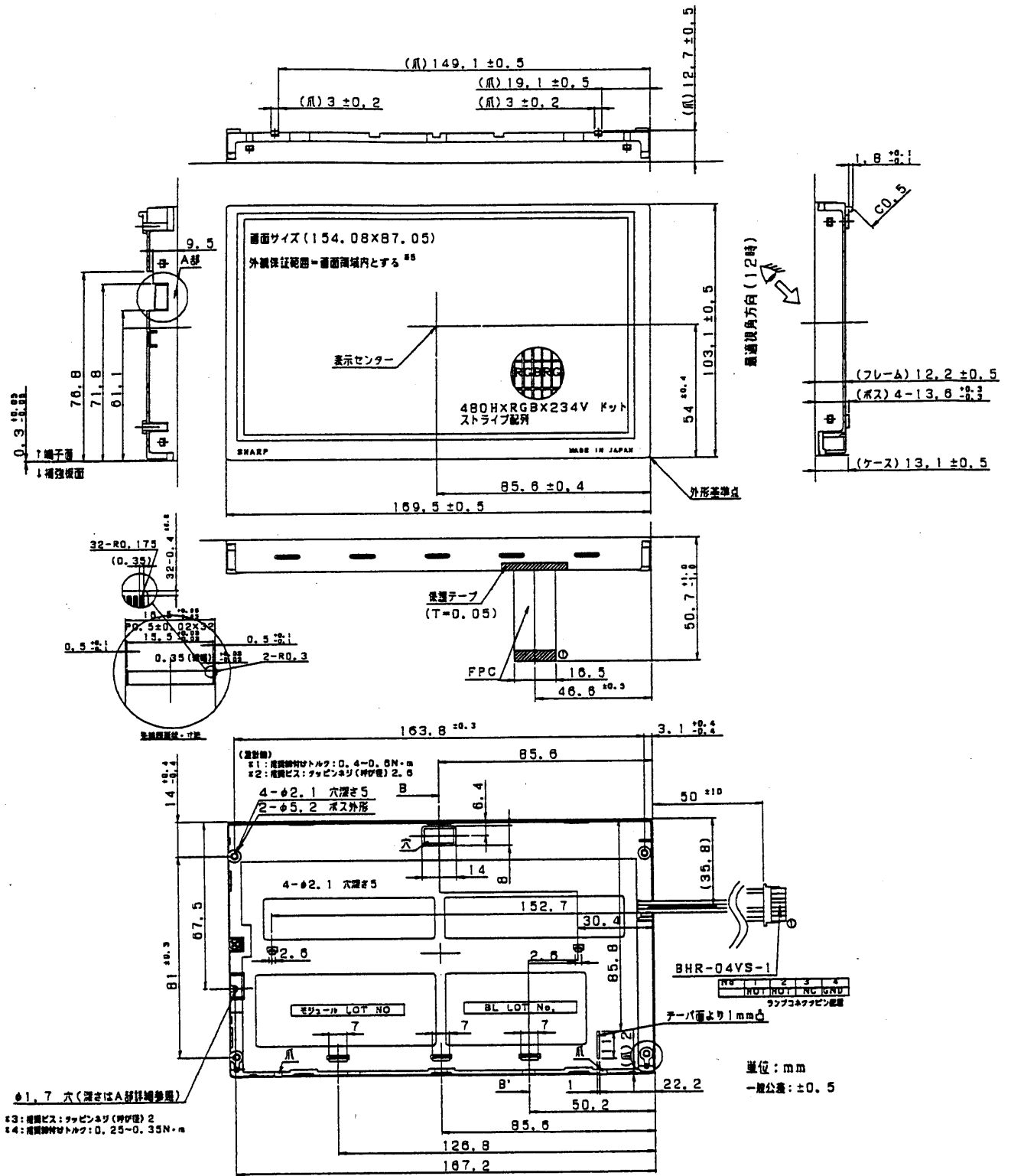
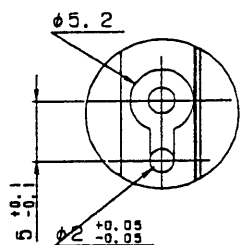
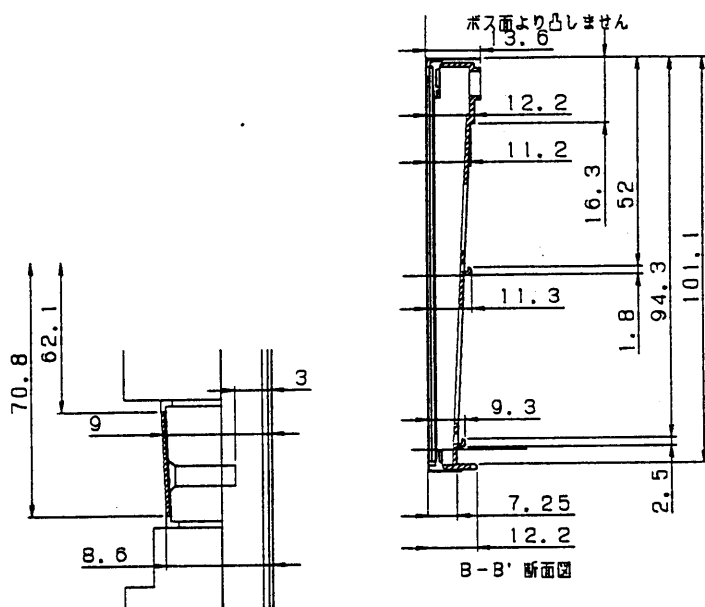


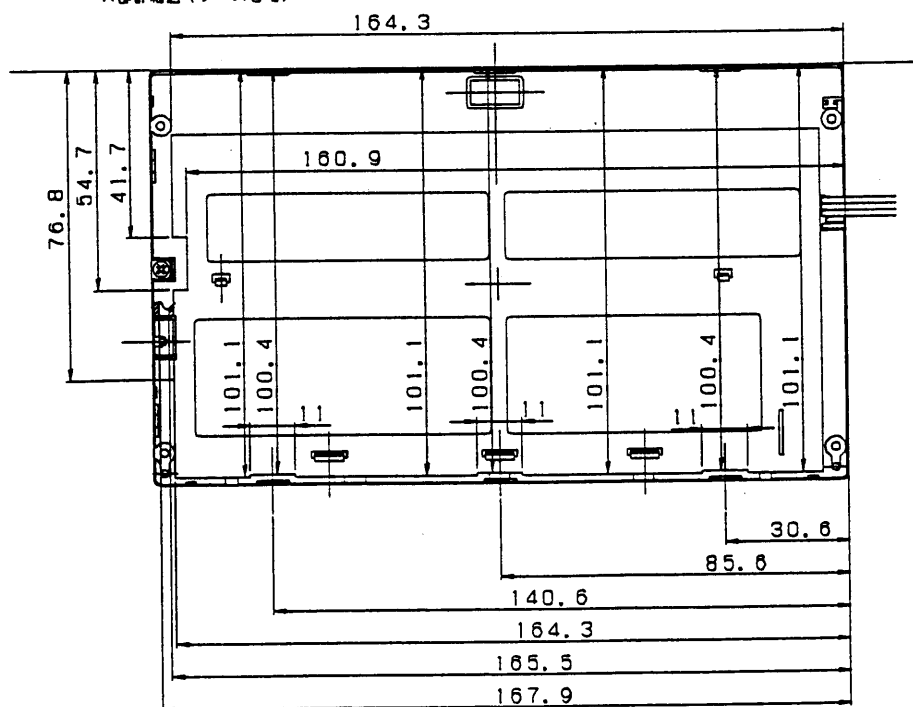
図1-1.モジュール外形図(1)



位置決めピン詳細図
2ヶ所



A部詳細図(ケース省略)



※5: 外観保証範囲外では電光板割欠落による気泡、表面傷等が存在する
可能性ありますのでセット設計時にはご配慮ください。
適合コネクタ(参考)
(FPC) 32FLZ-RSM1-R-TB (JST)
(B/L) SMD4(4.0) B-BHS-1-TB (JST)

図1-2 モジュール外開図(2)

参 考

LCY00102-17

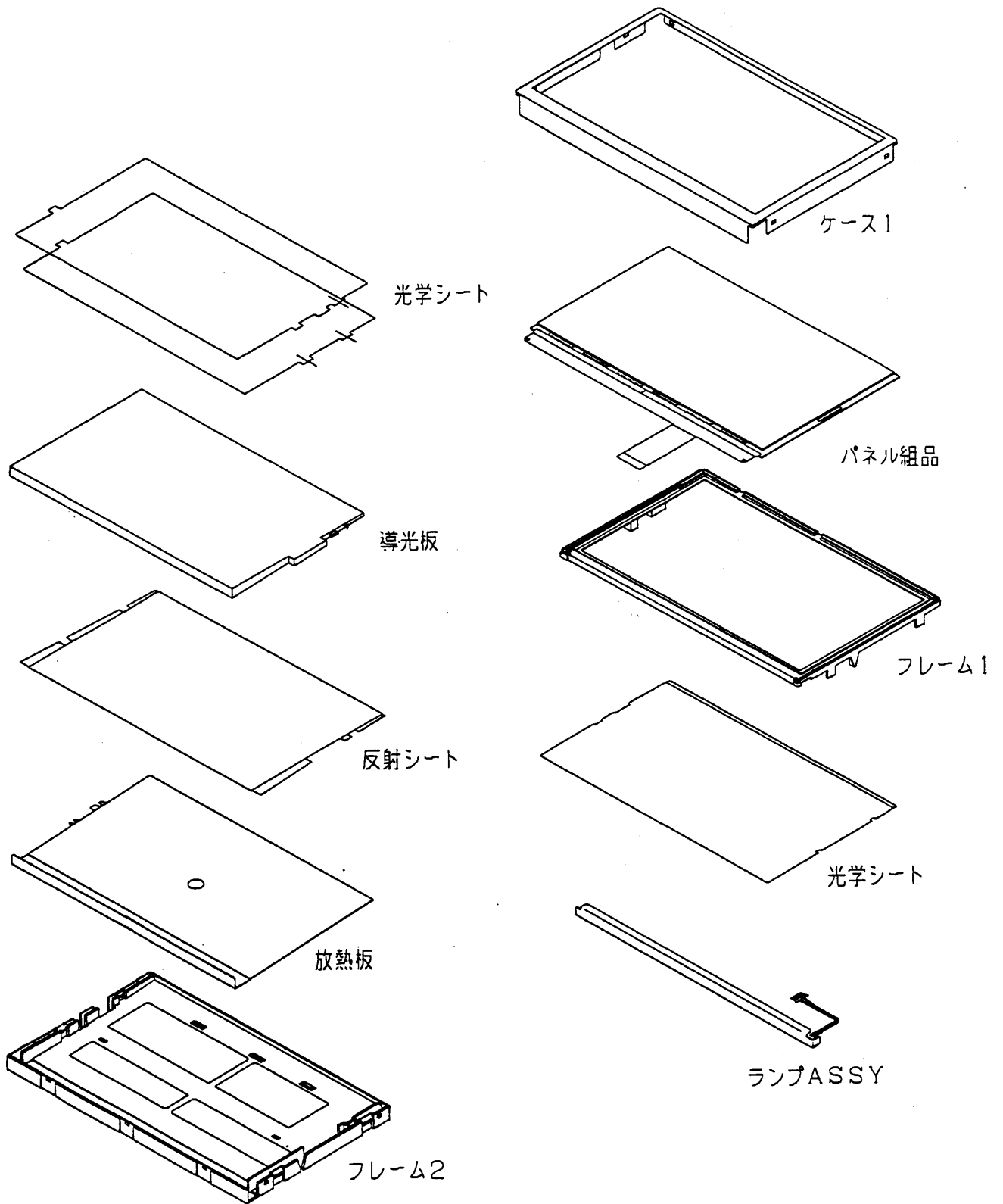


図2. 組み立て形態図

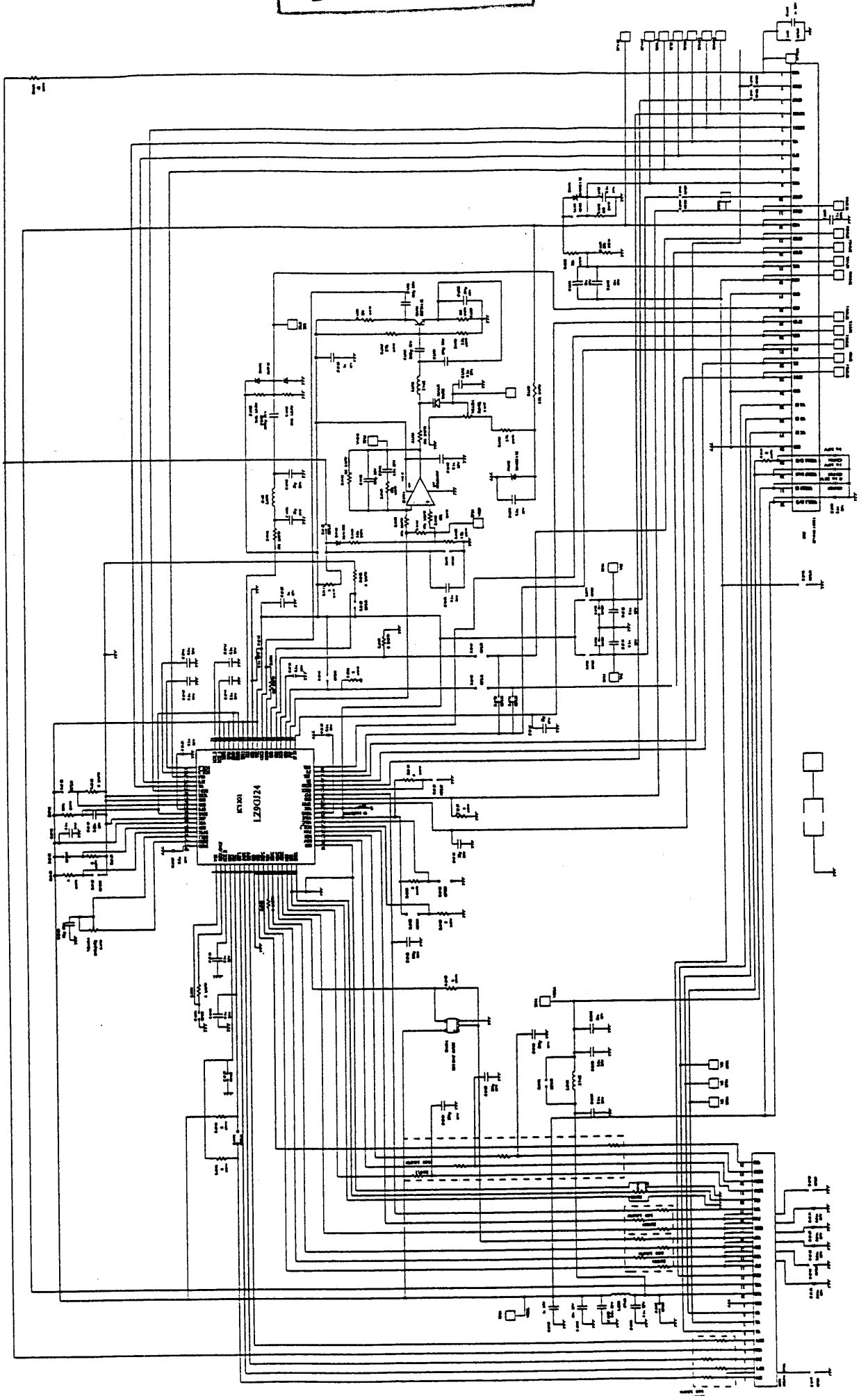


图3. 参考回路图

参 考

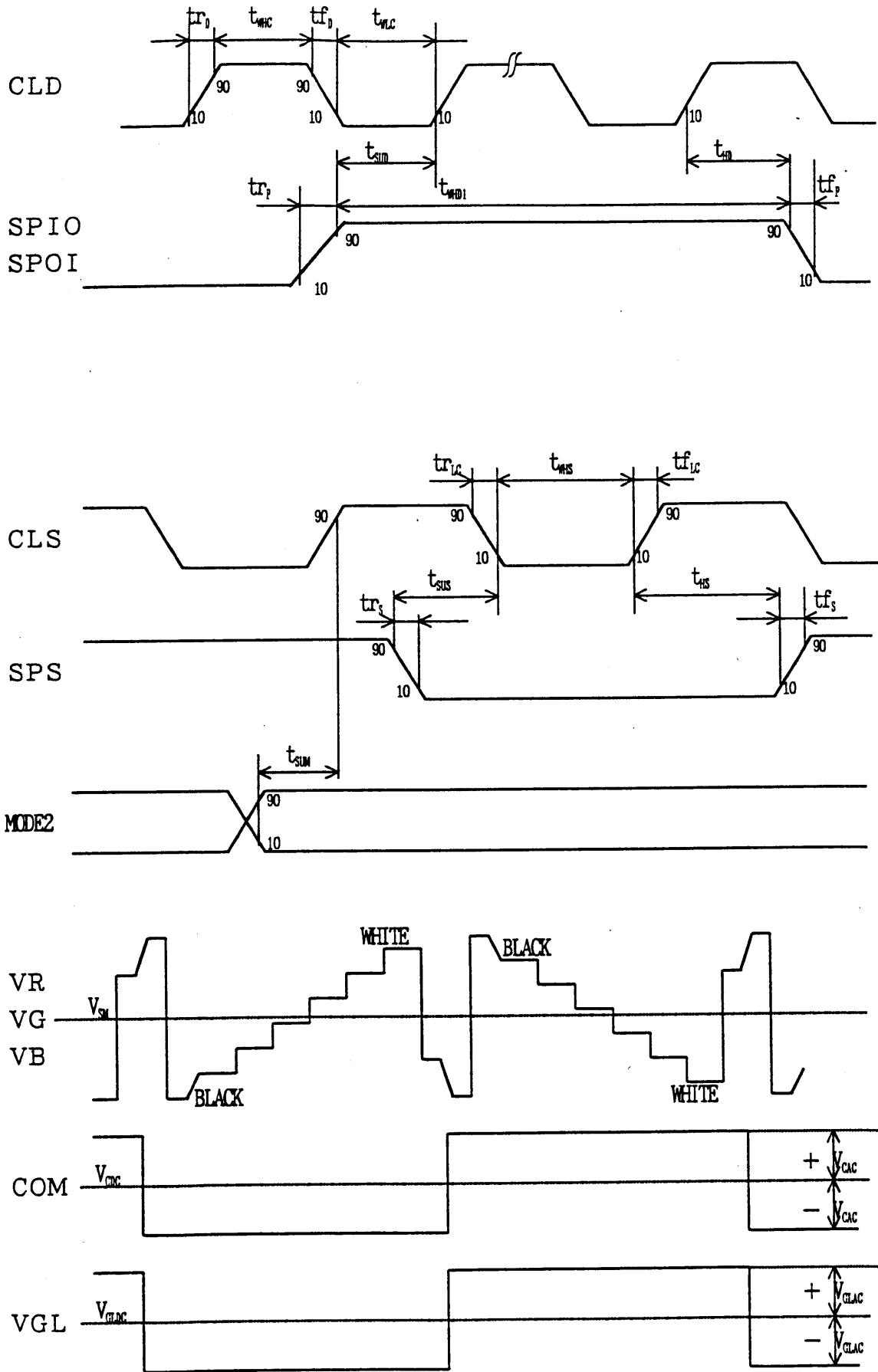


図4 入力信号タイミング図

参 考

LCY00102-20

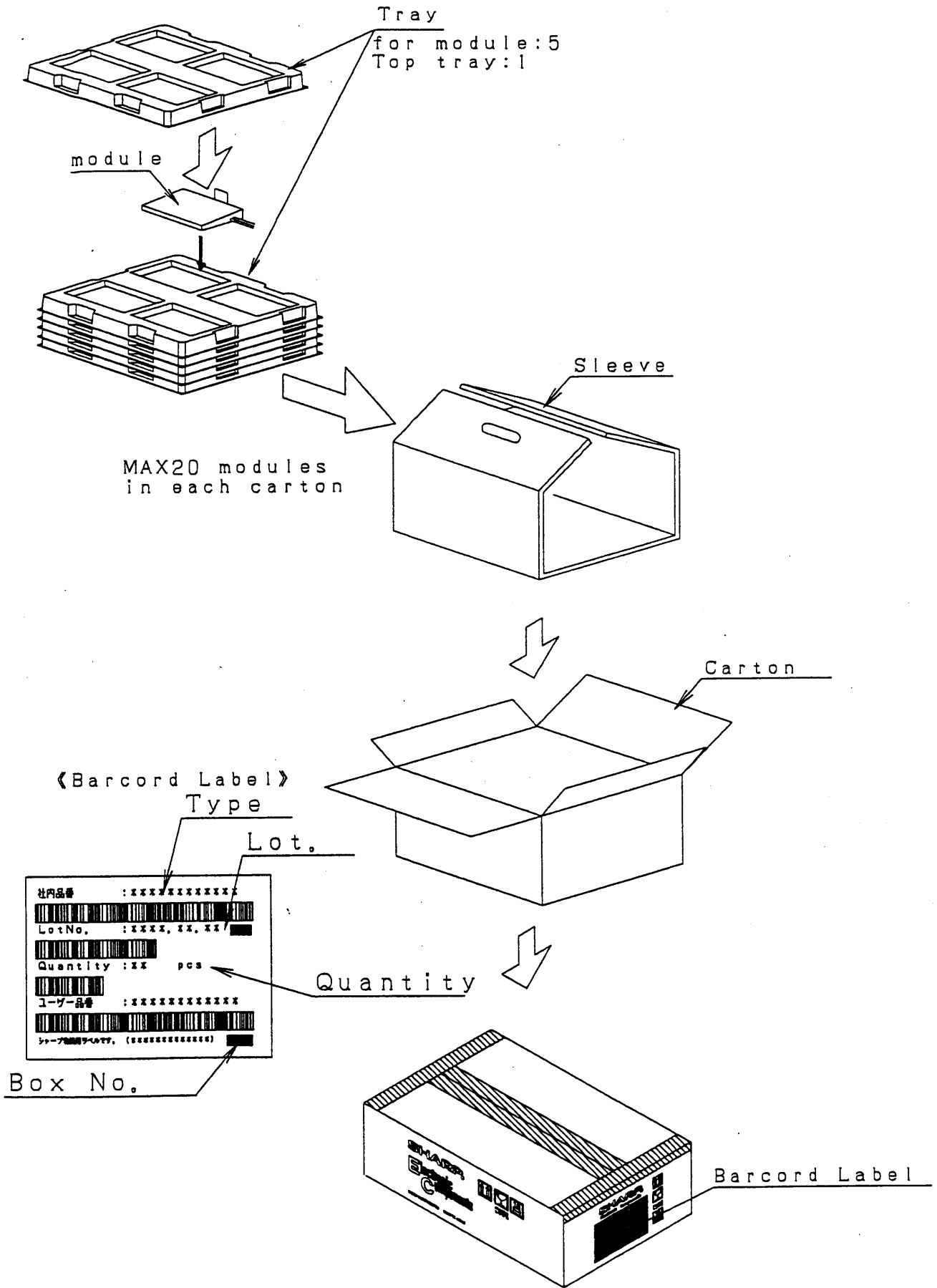


图5. 包装形态图

(付-1)

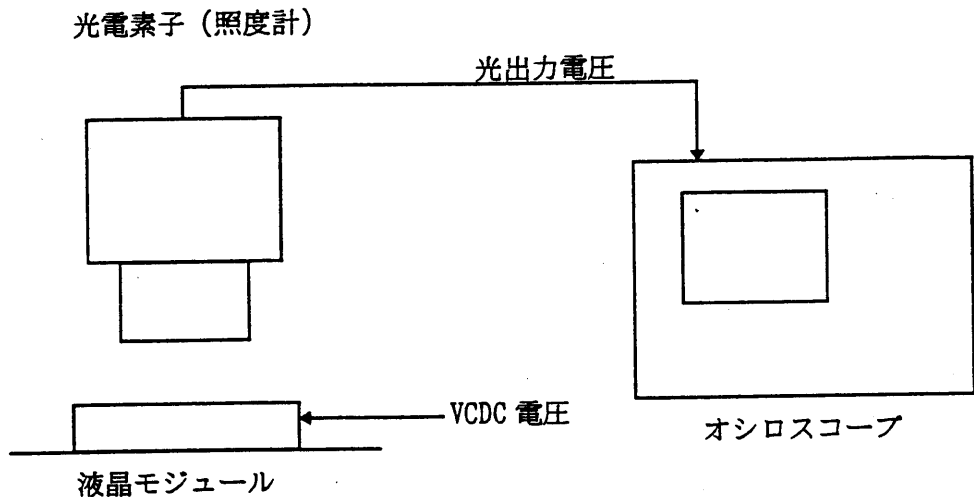
共通電極駆動信号最適DCバイアス電圧の設定法

共通電極駆動信号最適DCバイアス電圧を精度よく設定する方法として、光電素子を利用する方法が有効であり、精度0.1V程度を得ることが可能です。

(従来の目視法では、個人差があり精度0.5V程度)

光電素子を利用する最適DCバイアス電圧設定法として、下記方法があります。

フリッカ測定法………NTSC:60Hz(30Hz)/PAL:50Hz(25Hz)のフリッカ最小点に設定します。

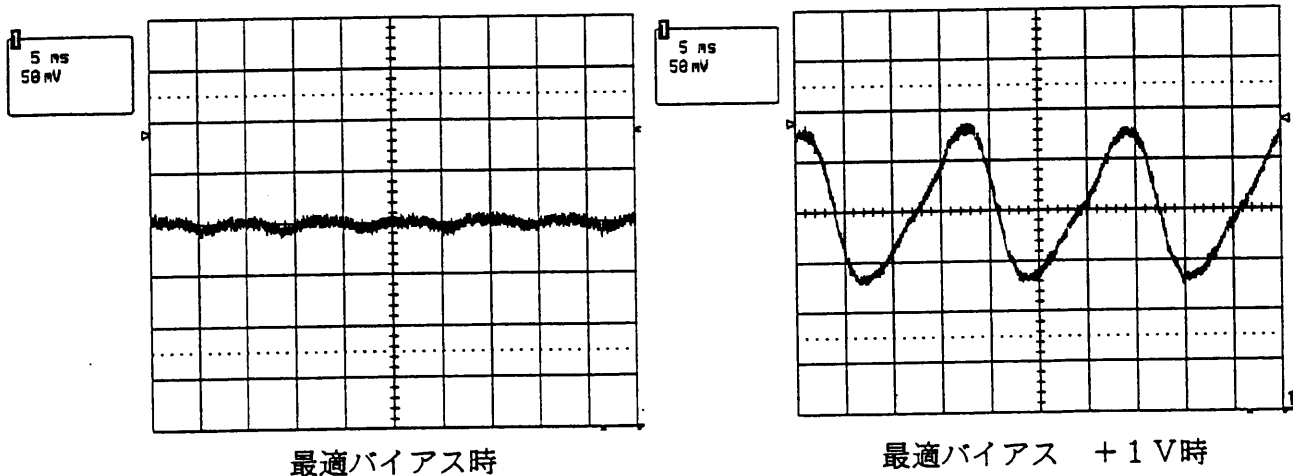


図A 測定系

《フリッカ測定法》

図Aの測定系で、オシロスコープを用いて光出力電圧を測定します。

共通電極駆動信号DCバイアス電圧をゆっくりと変化させながら、光出力電圧の60Hz(30Hz)[NTSC]/50Hz(25Hz)[PAL]のフリッカが最小となる点に設定します。(図B)



図B フリッカ波形

(おことわり)

本資料には弊社の著作権等にかかわる内容も含まれていますので、取り扱いには充分ご注意頂くと共に、本資料の内容を無断で複製しないようお願い致します。

本資料に掲載されている応用例は、弊社製品を使った代表的な応用例を説明するためのものであり、本資料によって工業所有権、その他権利の実施に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。また、弊社製品を使用したことにより、第三者と工業所有権等にかかわる問題が発生した場合、弊社はその責を負いません。

本資料に掲載されている製品の仕様、特性、データ、使用材料、構造などは製品改良のため予告なく変更することがあります。ご使用の際には、必ず最新の仕様書をご用命のうえ、内容のご確認をお願い致します。仕様書をご確認される事なく、万一掲載製品の使用機器等に瑕疵が生じましても、弊社はその責を負いません。

本資料に掲載されている製品のご使用に際しては、仕様書記載の絶対最大定格や使用上の注意事項等及び以下の注意点を遵守願います。なお、仕様書記載の絶対最大定格や使用上の注意事項等を逸脱した製品の使用あるいは、以下の注意点を逸脱した製品の使用に起因する損害に関して、弊社はその責を負いません。

(注意点)

本資料に掲載されている製品は原則として下記の用途に使用する目的で製造された製品です。

- ・電算機 ・OA機器 ・通信機器 [端末]
- ・計測機器 ・工作機器 ・AV機器 ・家電製品

なお上記の用途であっても または に記載の機器に該当する場合は、それぞれ該当する注意点を遵守願います。

機能・精度等において高い信頼性・安全性が必要とされる下記の用途に本資料に掲載されている製品を使用される場合は、これらの機器の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じる等、システム・機器全体の安全設計にご配慮頂いたうえでご使用下さい。

- ・運送機器 [航空機、列車、自動車等] の制御または各種安全装置にかかわるユニット
- ・交通信号機 ・ガス漏れ検知遮断機 ・防災防犯装置 ・各種安全装置等

機能・精度等において極めて高い信頼性・安全性が必要とされる下記の用途にはご使用にならないで下さい。

- ・宇宙機器 ・通信機器 [幹線] ・原子力制御機器 ・医療機器 等

上記 、 、 のいずれに該当するか疑義のある場合は弊社販売窓口までご確認願います。

本資料に掲載されている製品のうち、外国為替及び外国貿易法に定める戦略物資に該当するものについては、輸出する場合、同法に基づく輸出許可・承認が必要です。

本資料に関してご不明な点がございましたら、事前に弊社販売窓口までご連絡頂きますようお願い致します。

シャープ株式会社

<営業お問い合わせ先>

電子部品営業本部	〒545- 8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号	(06) 6621- 1221 (大代表)
第3統轄営業部	〒162- 8408 東京都新宿区市谷八幡町8番地	(03) 3260- 1161 (大代表)
青梅営業所	〒205- 0001 東京都羽村市五ノ神4丁目14番5号	(042) 579- 2301 (代表)
三多摩営業所	〒191- 0003 東京都日野市日野台5丁目5番4号	(042) 581- 6092 (代表)
大宮営業所	〒330- 0038 さいたま市宮原町2丁目107番2号	(048) 654- 8835 (代表)
水戸営業所	〒310- 0851 水戸市千波町1963番地	(029) 243- 7600 (代表)
仙台営業所	〒984- 0002 仙台市若林区卸町東3丁目 1 番27号	(022) 288- 9612 (代表)
長野営業所	〒399- 0002 松本市芳野8番14号	(0263) 27- 1677 (代表)
横浜営業所	〒222- 0033 横浜市港北区新横浜3丁目2番5号	(045) 478- 2580 (代表)
大阪営業所	〒545- 8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号	(06) 6624- 6473 (代表)
神戸営業所	〒661- 0981 兵庫県尼崎市猪名寺3丁目2番10号	(06) 6422- 8931 (代表)
福岡営業所	〒816- 0081 福岡市博多区井相田2丁目12番 1 号	(092) 582- 5245 (代表)
名古屋営業所	〒454- 0011 名古屋市中川区山王3丁目5番5号	(052) 332- 2681 (代表)
北陸営業所	〒921- 8801 石川県石川市野々市町字御経塚4丁目103番地	(076) 249- 6121 (代表)